

令和6年度 第2回 学校健康教育部会研修会報告

日時…令和7年2月8日(土) 14:00～16:00

場所…イールーム名古屋駅前A

参加者…41名

「子どもの成長曲線を読み解く～個別的な相談指導の実践に向けて～」

講師…和洋女子大学家政学部健康栄養学科 杉浦 令子氏

研修内容

杉浦先生が、肥満傾向児出現率と痩身傾向児出現率について、全国と愛知県の実態をグラフで示してくださった。肥満傾向児出現率では11歳男子が、痩身傾向児出現率では12・13・14・17歳男子、10・11・12・14・16・17歳女子が全国値を上回っていることが分かりました。さらに、コロナ禍前後の肥満傾向児出現率も示していただき、愛知県は多くの年代で、コロナ禍後、出現率が上がっているという大変憂慮すべき状況となっていることも分かりました。杉浦先生より、軽度肥満については学校での個別指導で対応できるというお話があり、学ぶ意欲が高まりました。

【身長・体重成長曲線、肥満度曲線について】

個々の子どもが身長が高いなら高いなりに、身長が低いなら低いなりに、適正な身長の伸びをしているかどうかを検討する必要があります。また、体重は身長との兼ね合いで検討する必要があります。その指標が肥満度であり、肥満度は肥満度曲線により評価することになります。



成長曲線により肥満やや

せを判定するには、身長や体重がチャンネルを横切っている場合には異常と判定するとのことでした。様々な事例の成長曲線を示していただき、どこに注目して、どのように指導すればよいのか教えていただきました。

【個別指導の進め方】

個別指導の対象者の抽出においては、肥満の場合、肥満度が20%以上を対象とするとよいこと、高度肥満や低身長と重複する場合は医療機関に紹介する必要があるとのことでした。個別指導を進めるにあたっては、対象者の過度の負担にならないようにすること、いじめのきっかけとなったりしないように周囲の実態を踏まえた指導を行うこと等にも留意が必要です。対象者が自分の意思で適切な食生活を自己管理できるように支援するため、今回学んだことを活かしていきたいと思

います。
(報告者 名古屋市立汐路小学校 東淳子)